

第4回自殺総合対策の在り方検討会における主な意見

➤自殺総合対策について

- ・自殺予防には、家庭、学校、地域社会、医療の協力・連携が必要

➤自殺対策への視点について

- ・社会全体を考える上で、実務的なアプローチと啓発的なアプローチの両方の視点が重要
- ・青少年については、高校生、大学生に対する対策も大事
- ・子どもだけでなく、高齢者や中高年も、弱音を吐くことができず、助けを求めることができずに自殺する人が多い。このことは、自殺対策をまとめて考えるヒントになるのではない
- ・自殺危険地（ハイリスク地）への対策を実施することが重要

➤地域における対策について

- ・住民参加、専門家の積極的な関与は重要。ハイリスク者への個別指導、キャンペーンの実施、メディアとの連携による積極的な啓発は効果がある
- ・うつに対する理解の増加と、地域の自殺に対する偏見の除去や信頼感の醸成という2つのアプローチをした結果、自殺者数が減った
- ・うつ病のハイリスク者へ保健師などが訪問指導をきちんと行うことは重要
- ・大都市では保健所単位など、できるところから自殺対策を始めて広げていくことが大事
- ・家族関係の改善への支援、世代間交流を含めて地域の交流の活動を強化、高齢者の生きがい対策をすることが重要
- ・介護予防事業は、今後、一層力を入れることが必要
- ・自殺対策を推進するにあたっては、現在実施している各種の行政施策の中で何ができるか、検証や検討をすることが必要
- ・都市部では、生涯学習や趣味のサークルなどが、高齢者の生きがい対策につながる
- ・単身の高齢者が増えてきた場合には、地域全体、都市全体の中でのサポートを強化していくことが対策になる

➤学校における対策について

- ・問題が起こっても、死ぬ以外の異なる見方、異なる解決方法があることを示していく教育が大事
- ・子どもたちが学校の中で位置づけられるような教育形態を教師と一緒に模索していくこと、弱音を吐いてもいいという風土ができること、話を聞いてくれる人がいることを確認できることが大事
- ・学校における自殺発生後の心理的ケアに対する危機管理マニュアルが必要
- ・子どもの心の健康は、一生にわたるメンタルヘルスの基礎であり、適切な対応が必要
- ・子どもの自殺予防教育は、それを通じて教師自身のメンタルヘルスを振り返る重要な機会であり、教師を対象とした教育も必要
- ・親にも自殺予防教育をして、何かあったらすぐに対応できることを示しておくことが必要
- ・理想的な自殺予防教育をすべて直ちに実施できないにしても、最低でもポストベンションを行うべき

➤都道府県における自殺総合対策の取組体制について

- ・都道府県は、むしろすべての部局が知事直轄。知事のリーダーシップが発揮できる体制を整備すれば、行政としての自殺対策も進む

➤調査研究について

- ・今後の高齢者については、生まれた世代が変わることによって、ストレスの受け方が変わってくると予測され、その実証は今後の課題
- ・自殺の原因・動機の7割が健康問題だが、その背景に経済苦のようなものもあるという視点が必要
- ・介護疲れによる自殺については、調査でハイリスク者を明らかにし、それに対して支援していくことが必要
- ・子どもの自殺について、第三者機関が入り、今までより細かい背景をつかむような実態の把握が必要
- ・子どもの現状把握を含めた分析や検証が足りないのではないか

➤普及啓発について

- ・自殺を恥と考えるような偏見を変えるための啓発をしていくことは重要
- ・都道府県民運動、国民運動のような啓発の広がりが一番大事
- ・「弱音を吐いてもいいんだよ」「話を聞くために待っている人がいる」というメッセージを子どもに伝えることが大事
- ・担任などが持っていなければ役立たないような大事な通知や資料は、教員数を配付してほしい

➤人材の確保について

- ・介護、福祉の現場で、そういう人たちが危機に対処できるようなスキルを身につけることは重要
- ・介護予防事業関係者に対する研修の実施などにより、自殺予防へつなげるところを一層強化することも必要

➤医療提供体制について

- ・様々な場面でうつのスクリーニングを行い、早めの発見につなげることが重要
- ・かかりつけ医の機能を強化することは重要
- ・内科医は、患者の体の訴えを正確にとらえて、身体症状から始まるうつの治療につなげていくことが大事
- ・大都市部は、医療機関が充実しているので、それを効果的に活用できる可能性を秘めている
- ・精神科や精神疾患などに対する偏見は、長い時間をかけて変えていかなければならないので、そこに至るまでのかかりつけ医の果たす役割は大きい
- ・簡便でスクリーニングに役立つ仕組みをかかりつけ医に提供する工夫が必要

➤自殺未遂者への支援について

- ・未遂に終わったときの子どもへの対応は、非常に慎重にかかわる必要がある

➤自殺者遺族等への支援について

- ・遺された親族へのケアは重要
- ・子どもの自殺が起きた場合、教職員や近い子どもへのケアを行うため、専門家チームによる支援が必要
- ・支援を受け、学校が正常に復した後、取り残されていくという形で様々な反応が出てくるので、それに対する注意が大事